

令和3年度

家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「家庭総合 自立・共生・創造」（東京書籍出版）						
副教材等	「家庭科55資料集」（教育図書）						

1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

調理実習を行うことで日常の食生活のなかで心がけるポイントを知り、それを実践できる力を養う。また、調理手順の動画を見せることで調理のイメージを持たせやすくする工夫を行う。

2. 学習の到達目標

衣食生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

3. 学習評価(評価基準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	人の一生と衣食などについて関心をもち、その充実向上をめざした主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と衣食などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と衣食などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と衣食などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートやワークシート 実習記録 レポート 自己評価	学習状況の観察 ノートやワークシート 実習記録 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価	学習状況の観察 ノートやワークシート 製作品 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価	学習状況の観察 ノートやワークシート 実習記録 レポート、発表 定期考査の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	衣生活をつくる	○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味を知る。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○平面構成と立体構成の違いを知る。 ○正しい採寸方法を知り、自分のサイズを知る。 ○被服製作の基本的事項を確認し、エプロン・巾着袋・三角巾の製作ができる。 ○布を使った伝統的な生活の工夫を知り、現代に生かす。 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる	○ ○<					

2	経済生活を営む	<p>○高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。</p> <p>○生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。</p> <p>○国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。</p> <p>○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。</p> <p>○消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。</p> <p>○大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。</p> <p>○消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解し、消費者市民社会の意義を踏まえて行動できるようにする。</p>	○	○		○	<p>a:生涯を見通した生活における経済計画について関心を持ち、自立した消費者として行動しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活における課題や消費者の権利と責任について理解しようとする。 ・環境保全に対する社会全体の取り組みや見通しの必要性から、持続可能な社会に向けた消費行動をしようとしている。 ・適切な情報の取捨選択や活用に関心を持ち、消費行動における意思決定の重要性や消費者市民社会について考えようとしている。 <p>b:経済的自立と職業について考えを深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多発する消費者問題について、その原因と対策について具体的な事例を通して考え、まとめたり、発表したりしている。 ・消費行動と環境との関わりについて、自身の生活と関連させて課題を見出し、生活の質を向上させるためにはどのような消費生活を築けばよいかを考え、工夫している。 ・消費行動における意思決定について、具体的な事例を踏まえて主体的に考え、適切に判断することができる。 <p>c:家庭の経済生活の諸課題の具体的な事例を収集・整理したり、生涯を見通した経済計画を立てることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立した消費者として、多様な情報の中から、適切な情報を取捨選択し、目的に応じて活用する技術を身につけている。 ・身近な生活の中から、環境に関わる生活の仕方を点検し、生活様式の見直しや環境に調和した生活など、自分の消費行動を検証することができる。 	<p>授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価</p>
---	---------	---	---	---	--	---	--	---

							<p>d:生涯を見通した経済計画の重要性について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭経済と国民経済の関わり, 家計の管理や経済計画の重要性を理解している。 ・消費者問題の現状や消費者の権利と責任について理解している。 ・環境問題に配慮したグリーンコンシューマーとなることが求められていることを理解し, 家庭生活と資源・環境との関わりについて, 自立した消費者になるための知識を身につけている。 ・消費行動における意思決定の重要性や消費者市民社会の意義を理解している。 	
2	食生活をつくる	<p>○日常の食生活を振り返り, 食生活の変化や課題について理解する。</p> <p>○日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。</p> <p>○日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り, 自分や家族に当てはめる。</p> <p>○食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を知る。</p> <p>○青年期の食事の重要性を理解し, 各ライフステージの栄養的特徴を知る。</p> <p>○食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び, 日常食を作れるようになる。</p>	○	○		○	<p>a:自分や家族の食生活, 地域の食文化に関心を持ち, 食生活と健康の関わりを考え, 意欲的に食生活の改善・向上に努めようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事調査や食品成分表を活用して栄養計算し, 食生活の問題点を考えようとしている。 ・調理実習や実験などに, 科学的な視点から, 積極的に取り組もうとしている。 <p>b:現代の食生活の課題や食事の意義について思考を深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養と健康な食生活の関わりについて考えている。 ・食事摂取基準や食品群別摂取量の目安について, 家族や自分の食生活と関連させて考え, 食生活の課題を調査してまとめたり, 発表している。 	<p>授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価</p>

